琉球病院 Monthly

独立行政法人
国立病院機構　琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.116
2024. July

発行者　琉球病院事務部長
池間　忍

基本理念　この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「琉球セミナーのご紹介」

経営企画室長　**田上　孝二**

新型コロナウイルス感染症の影響でながらく休止となっていた「琉球セミナー」を、令和5年12月から再開することが出来ました。

「遙かなる琉球病院」「業務改善に向けた多部門の連携のあり方」「ソーシャルワークと医療：昨日今日明日　依存症医療の経験から」「アルコール医療～次世代に語り継ぐここだけの話～」「ゲノム医科学からみた精神疾患の臨床」の5題が再開後のテーマです。

この中で私にとって最も興味深かったものは、筑後吉井こころホスピタルの紅先生が監察医の経験等からアルコールについて講演された事柄でした。その内容について、いくつか抜粋してご紹介します。

①35歳から54歳の中年男性急死者の31%が飲酒関連死であった。

②同じ週間飲酒量でも、週に2日7ドリンク/日飲む者の方が、2ドリンク/日を7日飲む者より飲酒に伴うリスク(事故、虚血性心臓病、アルコール依存症など)が高い

③成人のおよそ1割が適量を超えた(生活習慣病のリスクを高める量)飲酒をしている。

こういった問題について、「大事な人(パートナー等)の危ない生活習慣変容プログラム」として“DASHプログラム”の説明がありました。

その他のセミナーも、日々の業務では見落としがちな点を気づかせてくださるものであったり、新たな医療の可能性を感じさせてくださるものであったりと、大変興味深いものでした。

講師の先生方には、ご多忙のなか琉球病院にご来訪くださり厚く御礼申し上げます。

今後も「琉球セミナー」では精神科医療に関する様々な事柄をテーマに開催する方針です。

今後は、Web視聴にも対応した形で地域の医療に携わる方々への提供もしたいと考えておりますので、その際にはよろしくお願い申し上げます。

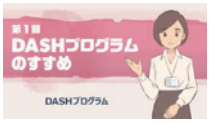
「DASH＝大事な人の危ない生活習慣を変容させる」プログラム

「DASHプログラム」は、職場や地域での実施を想定した、ワークショップ形式のプログラムです。少人数でのグループワークを通じて、飲酒・生活習慣に問題を抱えているご本人ではなく、**そのパートナーや家族、身近な人が参加することで、問題を抱えたパートナーにアプローチすることが特色です。**パートナーの行動変容を促せる、たしかなコミュニケーションスキルを習得できます。

- 対象参加者　アルコールや生活習慣で問題を抱えている人のパートナー、身近な人
- 習得できること　大事な人とのコミュニケーションスキル、生活習慣改善のためのコツ
- 実施形態　少人数でのグループワーク（1時間＊3回）
- 提供ツール　主催者用マニュアル、参加者用マニュアル、教育スライドなど

※DASHプログラムは「アルコール依存症予防のための簡易介入プログラム開発と効果評価に関する研究（2017～2019年度. AMED委託研究開発. 研究開発代表者：杠岳文）」として開発されました。

動画でわかる！DASHプログラムの進め方



再生時間 07:42

再生時間 09:13

再生時間 09:02

再生時間 09:00

DASHプログラムは4つの要素（アルコール健康教育→コミュニケーションスキル→グループワーク→ホームワーク）で構成されています。実際にどのように進めるかを4本の動画でご紹介します！

出　演　杠：岳文先生（監修、独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター院長）、中川康子先生（同院臨床心理士）
制作協力：佐賀県障害福祉課　佐賀県精神保険福祉センター
提　　供：大塚製薬株式会社

院　長

ふくじ　やすひで
福治　康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会評議員。
琉球大学医学部　臨床教授。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- クロザリル外来
- アルコール依存症等外来

病床数　353床

・精神（一般精神・クロザピン専門・精神科救急）	151床
・アルコール依存症	44床
・児童思春期ユニット	4床
・重症心身障がい	90床
・医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

路線バス　那覇BS（下り）または名護BS（上り）より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車　那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間　8:30 ～ 17:15（土・日・祝日・年末年始以外）
TEL　098-968-2133(代)
内線　231・234

地域医療連携室（直通）

TEL　098-968-3550
FAX　098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長　木田　直也

クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では 2010 年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、登録症例数は延べ 415 例になりました。2024 年5月の CLZ 新規登録症例は2例でした。CLZ 導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ 継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回の CLZ 専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院での CLZ 治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル / クロザリル適正使用の流れ (https://www.drs - net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

西Ⅰ病棟紹介

西Ⅰ病棟師長　仲村　智子

西Ⅰ病棟は、重症心身障害児（者）の病棟で、知的障害に加え運動機能障害の程度が低い、いわゆる「動く重症心身障害児（者）」と呼ばれる入所者が対象です。言葉で自身の想いや症状を伝えることが難しい入所者が多いため、表情や行動などから希望や病状を予測し支援を行っています。また、入院中の様子は受け持ち看護師から、山の子新聞（病棟新聞）に写真を同封したり、電話等で相談や報告を行うなど、離れて暮らすご家族にも安心して頂くための交流も行っています。

これからも、入所者個々に合わせた支援が行えるよう、医師・看護師・児童相談員・療養介護専門員・保育士・作業療法士・言語聴覚士・理学療法士・栄養士など様々な職種と連携を取り支援に繋げていきたいと思います。

西Ⅱ病棟紹介

西Ⅱ病棟師長　玉城　由美恵

当院の重症心身障がい児（者）病棟は、90 床２つの病棟で運用しています。西Ⅱ病棟は、自傷や他害、こだわりなどといった強度行動障害をもつ利用者だけではなく、経管栄養など身体管理が必要な利用者も多く入所されています。医師や看護師だけではなく、療養介助専門員、児童指導員、保育士、理学療法士、言語聴覚士などのチームスタッフで治療や、療育活動、摂食機能療法、身体リハビリテーションなどを多職種と連携して行っています。看護においては、強度行動障害者研修や重心エキスパートナース研修を受講したスタッフによる学習会を通して、重症心身障害児（者）にとって必要な専門的知識や技術でケアをしています。これからも、利用者ひとりひとりがその人らしく療養生活をおくれるよう、受け持ち看護師を中心に利用者の特性を理解し、個々にあった支援となるよう努めていきたいと思います。

DPAT 活動報告

主任心理療法士　前上里　泰史

【当院の災害対策委員会の取り組み】

当院において災害対策委員会が発足し2年が経過し、今年度で3年目に入ります。平時から災害に備え、精神科災害拠点病院として速やかに対応できるよう活動を継続しております。今回は災害対策委員会で取り組んでいる内容の一部をご紹介いたします。

本委員会のメンバーは、各部署から1名本委員会担当職員に参加いただき、20 名程度で構成されております。委員会の運営はＤＰＡＴ隊員が担っております。月1回メンバーで集まり、災害への備え、災害が起きた際の対応等シミュレーション、小グループでの検討、短時間の訓練等を実施しております。具体的には、災害等で電気・ガス・水道等が止まった時に生じる事態とそのときにできる臨時的対応、災害直後、通信制限がかかり家族と連絡がつかない場合の対応、道路が寸断され、発災後の初動の動きの確認、備蓄内容、などさまざまな事態を想定し、備えております。

6月時点、沖縄県では1時間に6月の観測史上最大となる雨量を観測し、100 年ぶりに記録を更新しました。連日大雨が続き、冠水被害、土砂災害が各地で起きております。梅雨があけると台風がやってきます。災害が身近なものになりつつありますが、速やかに対応できるよう平時から備えておきたいと思います。

重症心身障がい部門

療育指導室長　金城　安樹

【第３４回沖縄県重症心身障害児者を守る会定期総会に参加して】

沖縄県重症心身障害児（者）を守る会の定期総会が４月２９日（月）に琉球病院で開催されました。コロナ禍の影響で４年ぶりの開催となりましたが、沖縄県生活福祉部障害福祉課の大湾課長、沖縄療育園・南部療育医療センター・中部療育医療センター・名護療育園・琉球病院等、県内の重症心身障害施設の施設長が招かれ、会員の皆様が参加されました。当院家族会からも１０家族が参加され、守る会の活動報告や新型コロナ感染防止対策について、各施設からの報告が行われました。

１９６９年に沖縄県重症心身障害児者を守る会が結成され５５年が経過しています。戦後、米国の施政権下にあり、障害者に対する支援や入所施設が無い状態の中から、重症心身障害児者が安心して生活ができるように結成された親の会であり、現在の福祉施策に大きな影響を与えてこられたものと思います。一方で近年ではご家族の高齢化や入所施設が開かれてきた経過により会員離れが進んできているとの事です。大浦会長からは組織的な活動の為に、活動を共にという思いが強く感じられました。

「最も弱いものをひとりももれなく守る」の基本理念のもと、全国的なネットワークで情報共有をはかり、施設入所者や在宅者への支援活動を継続されている重症心身障害児（者）を守る会の皆様のご尽力に対して深く敬意を表しますと共に今後の更なるご繁栄を心よりお祈り致します。

地域医療連携室だより

精神保健福祉士　長根山　由梨

琉球病院のこども心療科外来には、15 歳未満のお子さんが様々な悩みや困りごとで通われています。お友達と遊べない、落ち着きがない、園や学校に行きたくない、やる気が出ない、イライラしてしまうといった心と育ちに関することについて、医師や心理士、精神保健福祉士がご家族とチームになり、お子さんひとりひとりの状態に合わせた関わり方を一緒に考えていきます。受診までしばらくお待たせする可能性がございますが、自分だけで抱え込まず、お気軽に専門スタッフへご相談ください。